

平成28年度学校経営計画表

茨城県立竜ヶ崎第一高等学校

1 学校の現況

学校番号	56	学校名	県立竜ヶ崎第一高等学校				課程	全日制		学校長名	鮎川 光義					
教頭名	全日制 原 光広								事務長名	張替 晴男						
教職員数	教諭	49	養護教諭	1	常勤講師	4	非常勤講師	1	実習教諭, 実習講師 実習助手	1	事務職員	4	技術職員等	3	計	63
	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数				
	普通科	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
		158	122	158	120	147	132			463	374			21		

2 目指す学校像

歴史と伝統を誇る重厚な校風の中で、文武両道の精神を継承し、豊かな教養と英知を備え、地域社会をはじめ国際社会に貢献しうる有為な人材の育成に努める。

3 現状分析と課題(数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 90%以上が授業に真剣に取り組んでいるが、予習復習の実施率は80%を割っている。 家庭学習時間の不足している生徒が20%いる。 計画的に学習を進める習慣が定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲を高め、自学自習につながる授業を創意工夫する。 宅習簿を効果的に活用し、家庭学習時間を確保するための指導を強化する。 3年間を見通した各教科の指導プログラム(シラバス)を明確にし、学習指導を充実させる。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 国公立大学志向、理系志向が強まっている。 志望は高いが、具体的な行動に移せない生徒が多い。 国公立難関大学に挑戦できるだけの学力をつけさせる教科指導を徹底していく段階に入ってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の希望や資質及び適性に応じた進路指導を、組織的に行う。 初期指導(Rプログラム)をさらに充実させて、学年と連携を取りながら、生徒一人一人の希望進路を早期に明確化させる。 国公立難関大学に挑戦する生徒たちをチームとして支援・指導していく体制を確立し、手立てを具体化し、共有化する。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 制服については、継続的な指導のおかげで女子のスカート丈の短い生徒は少なくなってきた。 家庭環境に恵まれないため、心身とも不安定な生徒がいる。 登下校時の自転車の乗り方等について、地域の方から指摘を受けることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「さわやかマナーアップ運動」への積極的な参加等により、規範意識や道徳心をさらに高める。 学校全体の共通理解のもと、心の教育と教育相談体制を充実させ、スクールカウンセラーを有効に活用する。 新学期のスタート時に重点的に登下校指導を行い、交通ルールの遵守を意識づける。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 部活動への加入率はH27年度79%(運動部:58%, 文化部:21%)で、様々な活動に積極的に関わろうとする生徒が多い。一方で、学業との両立に悩む生徒がいる。 部活動未加入者への対応が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 完全下校時間を遵守させ、部活動の効率化・充実化を図りながら、学習時間を確保させる。 部活動未加入者を含め、すべての生徒の活躍の場面を多く設ける。

4 中期的目標

- 「教育の質の向上を目指す学校づくり」(3年間を見据えて)
- 1 自ら学び, 自ら考える「確かな学力を育む。
 - 2 生徒の主体的活動を促進し「生きる力」を育む。
 - 3 生徒一人一人の道徳心を培い「豊かな心」を育む。
 - 4 「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」事業等を活用し, グローバルに活躍できる人材の育成を図る。
 - 5 特色ある学校づくりを進めることで, 地域から信頼され期待される学校づくりに努める。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 個に応じた指導の充実を図り, 「確かな学力」を育む。	(1) 生徒が自ら課題を見だし, 主体的に学び続け, 問題解決できる能力を育成する。 (2) 学習意欲の向上につながる指導の工夫とともに, 「授業力の向上」に務める。 (3) 授業, 土曜講座, 課外, 自学自習を有機的に結びつけ, 自主的, 主体的な学習習慣の確立を図るとともに, 家庭学習の定着に努める。 (4) 授業研究・授業公開等を活発化させ, 指導スキルの向上と生徒の学力向上に努める。
2 キャリア教育の充実を図り, 生徒一人一人の希望進路の実現に努める。	(1) Rプログラムに基づく系統的・組織的なキャリア教育により, 将来の目標をより明確にし, 学習意欲の向上に繋げる。 (2) 丁寧な個別面談を行い, 生徒一人一人の「進路設計とその課題」を明確にし, 最後まで諦めずにチャレンジし続ける心を養う。(数値目標: 東大・京大及び国公立医学部医学科複数人合格, 筑波大25人以上合格, 国公立大100人以上合格, 難関12大学の割合の増加) (3) 学年間・教員間の連携を深め, 広い視野から組織力・協働力で効果的に進路指導を進める。特に, 初期段階指導を重視する。 (4) 「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」事業を通して, 生徒の能力と適性に応じた希望進路の選択の幅を広げる。
3 豊かな心を育む教育を推進する。	(1) 規範意識や道徳心の育成等による豊かな心の育成に努めるとともに, 「いじめ」を絶対に許さないという意識の醸成に努める。 (2) 教員間の協働態勢・共通理解による指導を推進し, 教師と生徒の信頼関係の構築に努める。 (3) 学年間・教員間の連携を深め, 広い視野から組織力・協働力で効果的に進路指導を進める。
4 特別活動及び学校行事の充実に努める。	(1) 「凡事徹底」～当たり前前であることを当たり前前に行える生徒の育成に努め, あいさつの励行, 清掃の徹底, 規範意識の浸透, 豊かな心の育成等により明朗な校風づくりに努める。 (2) 教員間の協働態勢・共通理解による指導を推進し, 教師と生徒の信頼関係の構築に努める。 (3) 生徒の心情の理解を深めるとともに問題行動の早期発見・早期解決に努める。
5 体育・スポーツ活動を奨励し心身の陶冶と体力向上に努める。	(1) 文武両面において, 前向きに取り組める生徒を育成する。 (2) ホームルーム活動, 部活動及び生徒会活動を充実させることで, 生徒の主体性を育成する。
6 グローバルに活躍できる人材の育成に努める。	(1) 「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」事業を通して, 将来国際的に活躍し得る科学技術人材等の育成を図る。 (2) 国際交流事業を推進し, 異文化を体験することによって, グローバルな視野を広げる。 (3) 英語によるディベートの推進。英語によるプレゼンや英語検定試験の受験の促進。